

キリシタン・南蛮文化で連携して情報発信



(左から) 工藤義見日出町長、吉本幸司津久見市長、三河市長、釘宮磐大分市長、首藤勝次竹田市長、中野五郎白杵市長

2月12日(火)、大分市役所で、国東市、大分市、白杵市、竹田市、津久見市、日出町による「キリシタン・南蛮文化交流協定」の調印式が行われました。

県内各地に数多く残る戦国時代から江戸時代にかけてのキリシタン・南蛮文化遺産を、関係自治体が連携して地域振興・観光振興に役立てていこうと、三河明史市長が提案したもので、大友宗麟や南蛮文化に縁のある6市町での協定となりました。

調印式で三河市長は「関係自治体で連携し、キリシタン文化を発信し広げていきたいです。国東市は日本人で初めてエルサレムを訪れたペトロカスイ岐部をPRしていきます」と話しました。

ペトロカスイ岐部の功績を朗読劇と絵画で紹介

2月8日(金)、アストくにさきで、「信念の人『ペトロカスイ岐部の生涯』—音楽で辿るローマへの道—」が上演されました。市内の読み聞かせグループで活動する猪股正明さん(国東町東堅来)の朗読と古楽アンサンブル「アントネッロ」のルネッサンス音楽、さらに洋画家の村田佳代子さんの絵画と合わせて、ペトロカスイ岐部のドラマチックな人生を紹介しました。郷土の偉人を学んでもらおうと、市内の4中学校と国東小・熊毛小学校の児童・生徒が招待された昼の公演では、熱心に耳を傾ける生徒の姿が見られました。

また、この日は神奈川県在住の村田さんが国東市を訪れ、絵画など3点を市へ寄贈いただきました。寄贈品は、ペトロカスイ岐部の列福を願って制作したコラージュの作品「ペトロ岐部の軌跡」と生涯を描いた絵画「回想」、画集「日本のキリシタン」を1冊です。村田さんが「ゆかりの地で收藏してください」と目録を手渡すと、三河明史市長は「大事にして、多くの方に見ていただけるようにします」とお礼を述べました。



猪股正明さんの朗読



アントネッロの演奏



作品の前で三河市長へ目録を手渡す村田さん(写真右)